

## マツダ財団

公益財団法人マツダ財団は、「科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成などを行い、世界の人々が共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与すること」を目的に、1984年にマツダが設立した助成財団です。2017年3月31日までの助成総額は、16億3,629万円（2016年度は、5,355万円を助成）。

### 科学技術振興のための助成や事業 環境 人材 地域 財団

**目的：** 調和のとれた科学技術の向上を通じ、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与する。

#### 取り組み / 2016年度実績

- 研究助成（1985年～）：科学技術に関する基礎および応用研究に対する助成。33件に総額3,500万円※1を助成。 **a**
- 事業助成（1985年～）：研究者および民間の非営利団体※2が中国地方で開催する小中高生を対象とした「科学体験」に関する研究会などの助成。15件に総額200万円を助成。 **b**
- 科学わくわくプロジェクト（2003年～）：青少年の科学離れへの対応として、広島大学と連携。同大学の知的資源を活用した地域貢献プログラムとして実施。中学生対象の「ジュニア科学塾」（塾生24名、年4回）、中高生対象の「サイエンスレクチャー（出張・出前型講座）」（約200名、年3回）、小学校の先生対象の「小学校の先生のための理科ひろば」（72学級、約2,100名参加）を実施。

### 青少年の健全育成のための助成や事業 人材 地域 財団

**目的：** 青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることのできる社会の実現に寄与する。

#### 取り組み / 2016年度実績

- 研究助成（1985年～）：「青少年の健全育成」に関わる市民活動の活性化に役立つ実践的研究の助成。7件に総額500万円助成。
- 市民活動支援（1985年～）：青少年の健全育成や地域社会づくりのための諸活動を行う、広島県および山口県の民間非営利活動の助成。（東日本大震災復興支援1件含む）33件に総額875万円支援（P10参照）。
- 講演会（1984年～）：青少年健全育成などに関する講演会を、著名人を招き開催。キャスターの国谷裕子氏を招き、「2030年、その時、私たちは」をテーマに、広島国際会議場で開催（約1,300名が聴講）。 **c**
- 大学講義（1995年～）：広島県の大学で寄付講義。広島修道大学での2日間の集中講義や、夏休み中のボランティア実習を行う「キャリア形成特殊講義（ボランティア活動）」（20名参加）等を実施。
- 感動塾・みちくさ（1998年～）：身近な生活の中にあるものを題材に、仲間づくりや協力・創意工夫に取り組む子ども向け体験活動。3回実施（計150名以上参加）。 **d**
- スタートラインプロジェクト（2013年～）：青少年をめぐる社会的課題解決への取り組み。広島で子どもシェルター（緊急避難場所）および自立援助ホームを開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターと連携。ボランティアスタッフ養成講座開催（8回、14名参加）や、ピピオ子どもセンター設立5周年記念シンポジウム記録の製作・頒布等を実施。
- 調査・研究（2014年～）：若者自立支援事業の実施へ向けた調査・研究。調査・研究委託先の吉備国際大学と協力し、調査・研究成果を発信（書籍刊行や講演等）。 **e**

環境 環境保全に貢献する取り組み 安全 交通安全に貢献する取り組み  
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み 地域 地域に根ざした取り組み  
財団 マツダ財団を通じての活動

**a** マツダ研究助成 広島大学での贈呈式



**b** マツダ事業助成「ひろしまジュニアサイエンスフェア」での研究発表



**c** 国谷裕子氏講演会「2030年、その時、私たちは」



**d** 青少年野外活動センター「ナイトウォーク・天体観察」



**e** 「地方暮らしの幸福と若者」出版記念シンポジウム



※1 助成対象中、特に優れており、若手研究者を主たる対象とした研究4件に与えられた、マツダ研究助成奨励賞の副賞研究助成金各50万円を含む。  
 ※2 2015年度より、民間の非営利団体を助成対象として追加。